

2025年度 お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学 専攻 ・ 教育科学 コース

一般入試・外国人留学生入試

専 門 試 験

試 験 日 : 2025 年 2 月 3 日(月)

試 験 時 間 : 9時30分 ～ 12時

【注意事項】

1. 監督者の「はじめ」の合図があるまで問題冊子を開けないこと。
2. 試験中、用のある場合は手を挙げて監督者を呼ぶこと。
3. 各設問に対応する答案用紙に回答すること。

I. 次の AI (artificial intelligence) についての英文の全文を日本語に翻訳しなさい。なお、本文中の “AI” は、日本語でも「AI」とそのまま訳すこと。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(出典) Ethan Mollick (2024). *Co-intelligence: Living and working with AI* (pp. 172–174). Portfolio / Penguin.

Ⅱ. 以下の設問について、それぞれ400字以内で解答しなさい。なお、必ず3題すべてに解答すること。(解答は、Ⅱ－1、Ⅱ－2、Ⅱ－3と記載されている答案用紙に、対応する設問の解答をそれぞれ記載すること)

Ⅱ－1. 戦後日本の学校教育の理念と制度は、戦前と比べてどのような点が変化したかについて論じなさい。

Ⅱ－2. 教育科学領域における理論と実践の関係性について、例を挙げてあなたの考えを具体的に論じなさい。

Ⅱ－3. 日本における外国人児童生徒への教育支援の現状と課題について論じなさい。

2025年度 お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学 専攻 ・ 心理学 コース

一般入試・外国人留学生入試
専門試験（外国語を含む）

試 験 日 ： 2025 年 2 月 3 日（月）

試 験 時 間 ： 9 時 30 分 ～ 11 時 30 分

【注意事項】

1. 監督者の「始め」の合図があるまで問題冊子を開けないこと。
2. 共通問題である問題1と問題2のいずれにも解答すること。問題3Aから問題3Dは選択問題であり、志望指導教員の専門分野に合致する1つを選んで解答すること。
3. 問題ごとに答案用紙を1枚ずつ用いること。答案用紙3枚が配布される。
4. 答案用紙の左上の問題番号欄に問題番号を明記すること。
5. 問題3に関しては、解答する順序は自由だが、問の番号を答案用紙に明記すること。 例：問1(2)

問題 1 【共通問題】

以下の英文はいずれもアメリカ心理学会が出版した辞典に取り上げられている事項である。それぞれの下線部分を日本語に訳しなさい。(50点)

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(出典：American Psychological Association (2014). *APA dictionary of statistics and research methods*. American Psychological Association. より一部改変)

問題 2 【共通問題】

以下の英文の全文を日本語に訳しなさい。(50点)

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(出典 : Matsumoto, A. et al. (2024). An adapted sociocultural model of body image concerns and disordered eating among midlife men. *Sex Roles*, 90, 1653-1665.)

問題 3 A 【選択問題：発達心理学】

問 1

以下の（１）から（３）のうち２つを選び、それぞれについて、研究知見に言及しながら、説明しなさい。（３０点×２）

- （１）記憶の発達
- （２）言語の発達
- （３）自己の発達

問 2

「人が退屈状態に陥った時に表出しやすい行動とその個人差」を明らかにするための研究案を述べなさい。検討する内容、仮説、方法、分析法を含め、具体的に書きなさい。

（４０点）

問題 3 B 【選択問題：認知心理学】

問 1

以下の（１）と（２）のそれぞれについて、詳細かつ具体的に説明しなさい。

（２０点×２）

（１）錐体（cone）と桿体（rod）

（２）恒常法と調整法

問 2

他者の魅力を規定する要因を明らかにするための研究を１つ計画しなさい。仮説およびその仮説が導かれる背景、仮説を検証するための実験方法と統計的分析方法、予想される分析結果について、詳細かつ具体的に述べなさい。仮説の検証のために必要であれば、研究計画に複数の実験を含めてもかまいません。また、適宜、図を用いてもかまいません。（６０点）

問題 3 C【選択問題：臨床心理学】

問 1

以下の（１）と（２）について、３つの用語を組み合わせ、日本語で統合的な説明を書きなさい。（２０点×２）

（１）トランスセオレティカルモデル、行動変容、介入

（２）共分散、潜在変数、観測変数

問 2

以下の３つの用語を組み合わせ、英語で統合的な説明を書きなさい。（２０点）

health psychology, physical health, psychological well-being

問 3

感情コントロールと心身の健康の関連が指摘されています。このことを実証的に明らかにするための研究計画を、１つ考案しなさい。問題の背景、仮説、方法、分析計画（独立変数、従属変数、解析方法など）、想定される限界について、できるだけ具体的に日本語で記述すること。適宜、図を使用してもかまいません。（４０点）

問題 3 D 【選択問題：教育心理学】

問 1

以下の（１）から（４）のうち２つを選び、それぞれについて説明せよ。専門知識がない者にも理解できるよう、詳細に、かつ、わかりやすく記述すること。

（２０点×２）

（１）形式的操作期

（２）学習性無力感

（３）逆境的小児期体験（adverse childhood experience）

（４）遺伝率（heritability）

問 2

以下の２つの問いの両方に解答せよ。ただし、図は用いず、文章によってのみ解答すること。（３０点×２）

（１）交絡変数（confounder）、媒介変数（mediator）、調整変数（moderator）とはそれぞれどのようなものか、違いが明確になるように具体例を挙げながら説明せよ。

（２）統計的仮説検定における p 値とは何か、また、どのような役割を果たすか、詳細に論じよ。ただし、以下の用語を全て用いること。

帰無仮説、標本変動、有意水準

2025年度 お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学専攻 ・ 発達臨床心理学コース

一般入試・外国人留学生入試
専 門 試 験

試 験 日 : 2025年 2月 3日 (月)

試 験 時 間 : 9時 30分 ～ 11時 30分

【注意事項】

1. すべての問題に答えること.
2. 問題ごとに指定の答案用紙を使用すること.

2025 年度大学院人間文化創成科学研究科（博士前期課程）人間発達科学専攻
発達臨床心理学コース 2 月入試

【専門試験】

問題 1

心理的アセスメントの実践において、原則的に「すべきでないこと」を 3 つ挙げて説明してください。もし例外があるときには、それについても説明してください。

2025 年度大学院人間文化創成科学研究科（博士前期課程）人間発達科学専攻
発達臨床心理学コース 2 月入試

【専門試験】

問題 2

臨床心理学研究における「面接法」について、以下の問いに答えてください。

問 1 「面接調査法」の特徴を、「質問紙調査法」と比較しながら述べてください。

問 2 「調査面接」と、臨床心理学的支援における「臨床面接」との共通点と相違点を述べてください。

2025 年度大学院人間文化創成科学研究科（博士前期課程）人間発達科学専攻
発達臨床心理学コース 2 月入試
【専門試験】

問題 3

次の用語を説明してください。

問 1 オペラント条件づけ

問 2 家族療法

問 3 合理的配慮

問 4 PTSD

問 5 効果量

2025 年度 お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）
人間発達科学専攻 ・ 応用社会学コース
（一般入試および外国人留学生入試）
専 門 試 験 （ 外 国 語 を 含 む ）

試 験 日 :2025 年 2 月 3 日(月)

試験時間: 9:30 ～ 12:00

【注意事項】

解答は、問1, 問2, 問3それぞれ別々の答案用紙に記入すること。

2025 年度 大学院 人間文化創成科学研究科(博士前期課程) 人間発達科学専攻
応用社会学コース 2 月入試 専門試験(外国語を含む) 一般および外国人留学生入試

問1. 次の英文を読んで、(1)～(3)の問いに答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

(出典: Ragin, Charles C., 1992, 'Introduction: Cases of "What is a Case?"', Charles C. Ragin and Howard S. Becker eds., *What is a Case?: Exploring the Foundations of Social Inquiry*, Cambridge University Press, pp. 1-17 の中の pp. 3-4 より, 一部改変した.)

- (1) 下線部①を日本語に訳しなさい。
- (2) 下線部②の内容を日本語で説明しなさい。
- (3) 自分が関心をもつ社会事象を取り上げて説明し、それを研究する上で qualitative research と quantitative research をどのように有意義に link させることができるか(あるいはできないか), 具体的に論じなさい。

問2. 次の A, B の 2 問のうち, いずれか 1 問を選択して解答しなさい。(最初に A, B のいずれを選択したかを明記しなさい。)

A. NPO 等による学習支援が子どもの貧困対策において果たしうる役割と限界について, 社会学的に論じなさい。

B. 医療とジェンダーの関係を社会学的に分析するには, どのような視点が考えられるか。考えられうるものを複数列举し, 具体例を挙げながら簡潔に論じなさい。

問3. 次の①～⑥の人名や概念のうち 4 つを選んで, それぞれ項目の番号を明記してから 3 行以上で説明しなさい。

- ① ラベリング(labeling, レイベリング)
- ② シャドウ・ワーク(shadow work)
- ③ 理念型(Idealtypus)
- ④ ゲマインシャフトとゲゼルシャフト(Gemeinschaft und Gesellschaft)
- ⑤ ロバート・D・パットナム(Robert D. Putnam)
- ⑥ 媒介変数(mediator/mediating variable)

2025年度 お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科 (博士前期課程)

人間発達科学 専攻 ・ 保育・児童学 コース

(一般・社会人特別・外国人留学生 入試)
(専 門 試 験)

試 験 日 : 2025 年 2月 3日 (月)

試 験 時 間 : 9時 30分 ~ 12時 00分

【注意事項】

1. 監督者の「始め」の合図があるまで問題冊子を開けないこと。
2. 試験中、用のある場合は手を挙げて監督者を呼ぶこと。
3. 問題毎に対応する番号の答案用紙1枚を使用すること。

問題 1

次の英文を日本語に訳しなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

出典

Michel, S. (2011, January 19). *The History of Child Care in the U.S.* VCU Libraries Social Welfare History Project. <https://socialwelfare.library.vcu.edu/programs/child-care-the-american-history/>
より一部改変.

注

ENS=Emergency Nursery Schools

問題2

虐待の「世代間連鎖」について書かれた次の文章（問題2の資料①・②）を読み、問いに答えなさい。

（1）この文章において著者は、「世代間連鎖」という考え方がどのような問題をはらんでいると論じているか、記しなさい（200字程度）。

（2）「世代間連鎖」という考え方について著者が行っている批判的検討は、虐待問題への理解と対応においてどのような意義を持ちうるか、論じなさい（400字程度）。

出典：小西真理子『『不幸』の再生産—世代間連鎖という思想の闇』、小西真理子・河原梓水（編）『狂気な倫理—「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定』、晃洋書房、2022年、p. 4 および pp. 8-10、一部改変。文章は次ページ以降に掲載

貧困、犯罪、障害など、ある「問題」を抱えている人が親になると、その子どもがその「問題」を引き継ぐということがさまざまな領域で語られてきた。虐待の連鎖という考え方もそのひとつである。二〇一三年に厚生労働省が発表した「子ども虐待対応の手引き」でも、虐待する保護者の背景のひとつとして世代間連鎖があげられていることに象徴的であるように（厚生労働省二〇一三：二六）、『子どもを虐待する親自身、かつては被虐待児だった』ということは、よく言われること（久保田二〇一〇：三七三）であり、そのような考え方は専門家のあいだのみならず、一般に広く共有されている。虐待致死事件の加害者である親が過去に虐待されていたことが判明すると、それが世代間連鎖の証明であるかのような反応や報道が見られることもある。

（中略）

家族問題に苦しんだ経験のある人が、世代間連鎖の恐怖を語ることはとても多い。虐待や不適切な養育を経験したと自認する人は、「それを繰り返したくない、子どもにあんな経験はさせたくないと言」い、そのなかには『結婚しない』『親になりたくない』という決意をする人（信田二〇一九：二三一）もいる。本当は子どもがほしいけれど、自分のような人間は子どもを生んではいけないという強い信念をもつ者が現れてくるのだ。

虐待の世代間連鎖にかんする調査研究の多くは、被虐待経験をもたない親と比較して、被虐待経験をもつ親は子どもを虐待する確率が高いと論じている^①。しかし、一連の調査を概観すれば、被虐待経験のある人が親になって虐待する確率は三〇%前後という報告が多く（Goodman & Scott 2005）、これらの研究が絶対的な連鎖を主張しているわけではないことが分かる。さらに、多くの専門家は、世代間連鎖は運命的ではなく、子ども時代に親以外の適切な養育者がいることや、共感に満ちた治療者や支援者のケアを受けること、そして、成人後に情緒的サポートをしてくれるパートナーを得ることなどの条件を満たせば、連鎖を絶てると考えている（Selle 1997：29、信田二〇一九：一九六）。信田さよ子は、「自分も子どもを虐待してしまうかも、親になる資格はないのでは」と悩む声^②に対して、「連鎖の不安を持った人はむしろ、『安全な子育て』を心がけるかもしれない」ため「虐待された娘が母になって子どもを虐待する、という連鎖は必ずしも起きない」（信田二〇一六：五三）と述べている。そもそも大前提として、世代間連鎖にかんする専門家の見解や研究のほとんどは、被虐待者の非難を目的としていない。

さらに重要なことは、世代間連鎖を証明しようとする研究の信憑性が、実は疑問視されてもきたことである。ジュディス・ハーマンは、「一般に浸透している『虐待の世代間連鎖』という概念に反して、圧倒的多数のサバイバーは、自分の子どもを虐待しないしネグレクトもしない」（Herman 1992：113-114）と主張している。遠藤利彦は、世代間連鎖を支持しているように読める記述をしている一方、一連の調査が児童虐待の加害者となつてしまった親に過去の被虐待経験を問うという回顧的算出法であることを疑問視し、被虐待経験をもつ人を縦断的に追って親になつた時点で実際にどれだけ虐待するかという「三世代にわたる真の縦断研究でも行われない限り、虐待の世代間伝達率の正確な評価はできないと結論すべきなのかも知れない」（遠藤一九九三：二〇六）と補足している。

このように、従来の研究も臨床的見解も、世代間連鎖という思想をもって被虐待経験者に「あなたは虐待者になる」などと語りかけていない。しかし、虐待致死事件が起き、その親に虐待歴があつたと報道された際に虐待の連鎖が指摘され、その親には「親になる資格」がなかったという批判が投げかけられたり、多くの一般書や専門書で世代間連鎖が現に存在すると書かれていたり、そもそも世代間連鎖という思想が存在し、それについてあれこれ言説が形成されたりする影響は、上記の慎重な姿勢を凌駕するもののように思われる。世代間連鎖をめぐ

る言説が物語っているのは、それにどんな配慮をとまう言い方が添えられていようとも、結局は、被虐待経験をもつ人はそうでない人よりも、「不幸な子ども」を再生産してしまい、「健全な子育てができない可能性が非常に高い者」(小西二〇一七:一九三)であるということだ。事実として、福祉も被虐待経験者を養育に問題を抱える可能性が高いハイリスクな存在として位置づけているのではないか。

犯罪者の家族研究では、一般に犯罪が「家族に継承される」ものとして認識されており、犯罪者の子どもは「潜在的犯罪者」という烙印を押されることが指摘されている(Cobb 2008)。その背景には、「血を同じくする者たちは、同じ欠点や危険性を共有している」(宿谷二〇一九:一五九)という血縁理論(ないし遺伝子理論)や、被養育者は養育者の影響を受けているだろうとする思想がある(ターソン二〇一八)。児童虐待は犯罪と見なされるものであり、虐待者は加害者である。被虐待児にとって、自らの親は犯罪者かつ加害者であり、自分は被害者だったともいえる。これが連鎖するということは、将来、自分が犯罪者かつ加害者になり、しかも、その被害者は自らが生を授けた子どもであるということになる。自らの苦悩をその生い立ちにあると考えている人たちにとってこのことが意味しているのは、自分こそが、自らが抱えている苦悩と同じものを子どもに与えてしまうかもしれない加害者予備軍であるということである。ケンプらの論文にも見られるように、関連書籍や研究には、自分は親のようにならないのだという強い願いを持っているにもかかわらず、(正しい対処をしなれば)この連鎖は起きてしまうと書かれている。そして、連鎖を生じさせる典型的な親像のひとつが、被虐待経験をもち、(特に若くして)意図せぬ／望まぬ妊娠を経験した母親なのである。

問題 3

資料 (問題 3 の資料①・②) を読んで、以下の問いに答えなさい。

(1) 文中の A、B、C、D、E に、以下の言葉から、それぞれどれが当てはまるか書きなさい。

- ・ 積極的
- ・ 悲劇的
- ・ 個人的
- ・ 論理的
- ・ 自立的

(2) 資料は、『ファンタジーの文法』という本の一部である。著者はファンタジーをどのようなものと論じているのか、説明しなさい。(300 字以内)

出典：ジャンニ・ロダーリ著 窪田富男訳 (1990) 『ファンタジーの文法―物語創作法入門』筑摩書房, pp. 54-58. (一部改変。文章は次ページ以降に掲載)

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。